

上場企業の「内部統制報告制度」及び「不正リスク」に関する調査

- 貴社の最高財務担当責任者(CFO)の方にお伺いいたします。
- ご多用のこととは存じますが、電子メールで(research@researchworks.co.jp)に2021年4月15日までにご返信願います。
- すべてのご回答は、本紙にご記入の上、ご返送ください。

I フェイスシート

(a) 貴社名をご記入ください。

企業名 _____

※本調査によって、団体名が公表されることは一切ありません。

回答結果の分析のために、団体の属性を使用するために伺います。

(b) 本アンケートにご回答いただいている方の役職等を以下の中から選んで番号に○を付けてください。併せて、現在の役職に着いてからの経験年数をご記入ください。

1. 最高財務担当責任者(CFO) _____ 年
2. その他 (具体的にご記入ください) _____ 年

{ _____ }

(c) ご回答いただいた企業には、e-mail で調査結果をフィードバックいたします。宛先をご記入ください。

ご担当者名 _____

e-mail _____

Ⅱ 「内部統制報告制度」に関する質問

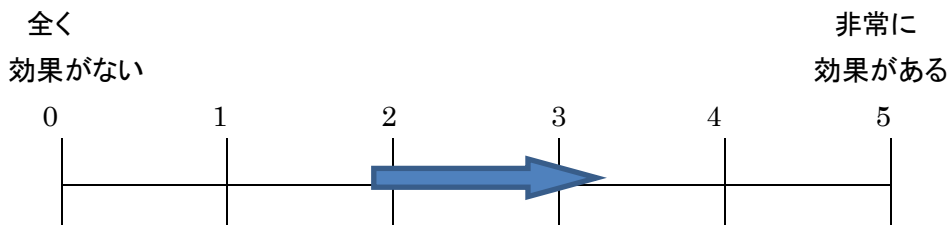
(1) 現在、貴社において、以下の内部統制の事項に関して、どの程度、機能している又は課題があると考えられますか。**0(全く有効ではない)～5(非常に有効である)まで**のうち、**最も当てはまる数字を1つご記入ください。**

項目	有効性の程度 (0から5までの数値 でご記入ください)	項目	有効性の程度 (0から5までの数値 でご記入ください)
1. 業務の有効性の確保		11. 業務のコントロール	
2. 業務の効率性の確保		12. 適正な情報の作成と管理	
3. 財務報告の信頼性の確保		13. 社内または社外との間でのコミュニケーション	
4. 役員のコンプライアンスの確保		14. 内部監査	
5. 従業員のコンプライアンスの確保		15. 内部統制報告の評価体制	
6. 会社の資産(有形・無形)の保全		16. IT統制	
7. 取締役会・監査役等の機能		17. 企業集団における業務の適正性の確保	
8. 人事の方針と管理		18. 海外子会社の業務の適正性の確保	
9. 権限・職掌の分離		19. 全社的なリスク・マネジメント	
10. 企業リスクの評価と対応		20. クライシス・マネジメント	

質問紙 兼 回答紙

ご回答は、本紙に直接ご記入願います。

- (2) 貴社において、内部統制報告制度が有している効果について、以下のうち最も適切と考える程度を1つ選んで、その番号に○を付けてください。



- (3) 貴社における内部統制報告制度の実施による影響等について、以下の事項に関して、どの程度、当てはまると考えられますか。0(全く当てはまらない)～5(非常に当てはまる)までのうち、最も当てはまる数字を1つご記入ください。

項目	当てはまりの程度 (0 から 5 までの数値 でご記入ください)
1. 業務が有効に行われるようになった	
2. 業務が効率的に行われるようになった	
3. 財務報告の信頼性が確保されるようになった	
4. コンプライアンスが適切に確保されるようになった	
5. 資産の保全が図られるようになった	
6. 文書化作業が多くなった	
7. 業務にかける人員が多くなった	
8. チェックや確認作業にかける時間が多くなった	
9. 社内規程や業務マニュアルが多くなった	
10. 監査法人に対する報酬が高くなった	
11. 業務のミスが少なくなった	
12. 不正リスクが低くなった	
13. ITシステムへの投資額が高くなった	
14. 業務管理が形式的なものになった	
15. 内部監査部門を拡充することになった	
16. とくに影響はない	
17. その他{ } (具体的にご記入ください。)	

質問紙 兼 回答紙

ご回答は、本紙に直接ご記入願います。

- (4) 内部統制に関する制度についての改革案のうち、以下の項目のそれぞれについて、期待する程度を、**0(全く期待しない)～5(非常に期待する)まで**のうち、最も当てはまる数字を1つご記入ください。

内部統制報告制度の改革案	期待する程度 (0 から 5 までの数値で ご記入ください)
1. 会社法の内部統制の整備に関するガイドラインの公表	
2. 会社法の内部統制の運用状況の評価に関するガイドラインの公表	
3. 会社法の内部統制と金商法の内部統制報告制度の統合	
4. 内部統制報告制度における経営者による内部統制報告の廃止 (外部監査人による内部統制の評価と監査のみとする)	
5. 内部統制報告制度における経営者による運用状況の評価(サンプリング作業等)の廃止	
6. 内部統制報告制度における全社的な内部統制の評価の廃止(業務プロセスにかかる内部統制の評価のみとする)	
7. 内部統制報告制度における業務プロセスに係る内部統制の評価の廃止(全社的な内部統制の評価のみとする)	
8. 内部統制報告制度における監査法人による内部統制監査の廃止	
9. 監査法人が、財務諸表監査の一環として内部統制についても評価し、監査報告書上で報告する(内部統制の監査手続は実施するが、別の意見表明とはしない)	
10. 内部統制が有効であった会社に対する優遇措置の導入	
11. 内部統制報告制度に代えて、コーポレートガバナンス・コードに内部統制の評価に関する項目を入れる	
12. 現行の制度をそのまま維持する	
13. その他 { } (具体的にご記入ください。)	

Ⅲ 「不正リスク」に関する質問

企業における不正の種類として、以下のものを想定します。

つまり、ここで対象とするのは、会計不正であって、それ以外の社会一般にいう不正ではありません。

このことを前提に、以下の問いにご回答ください。

不正の種類	
<不正な財務報告>	<資産の流用>
売上の架空計上	経営者による資金の流用
売上の早期認識	子会社役員における横領
費用・損失の隠蔽又は先送り	従業員による横領
原価の付替え	水増し発注又はリベート
非連結の関係会社を利用した売上の架空計上	不正支出
架空循環取引	海外子会社における不正支払
不適切な資産評価	
不適切な開示	
海外子会社における不正な報告	

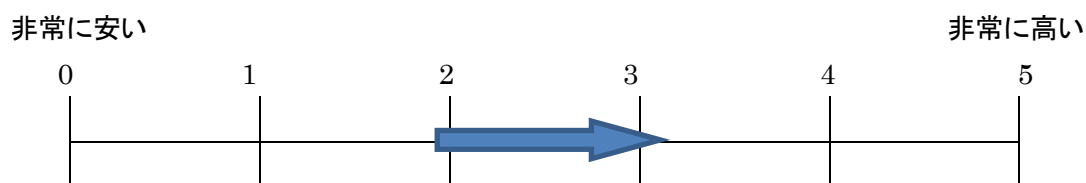
質問紙 兼 回答紙

ご回答は、本紙に直接ご記入願います。

- (1) 貴社において、不正を発見又は防止するに当たっては、以下の表に挙げる当事者又は機能はどの程度有効だと考えますか。それぞれの項目ごとに、**0(全く有効ではない)～5(非常に有効である)まで**のうち、最も当てはまる数字を1つご記入ください。

不正に対処する当事者又は機能	有効性の程度 (0から5までの数値で ご記入ください)
1. 所定の内部通報制度	
2. 内部通報(内部告発等)	
3. 内部監査部門による定期監査	
4. 内部監査部門による特命監査(経営者の指示による監査)	
5. 監査役(会)、監査等委員会又は監査委員会による業務監査	
6. 監査役(会)、監査等委員会又は監査委員会による会計監査	
7. 監査法人による監査	
8. 内部統制報告制度に基づく評価作業	
9. 業務執行取締役による監視	
10. 社外取締役による監視	
11. 業務の中での現場の上司による管理	
12. 業務の中での管理部門による管理	
13. 業務の中での同僚どうしの相互牽制	
14. 外部の取引先の眼(チェック)	
15. 外部の金融機関等(債権者)の眼(チェック)	
16. 外部の大株主等の眼(チェック)	
17. 外部のアナリスト等の眼(チェック)	
18. 外部のマスコミ等の眼(チェック)	
19. 外部の税務当局等の検査	
20. 外部の証券取引所等の審査等	
21. 社員一人一人の倫理観	
22. 社風又は企業風土	
23. 経営トップの意識や発言等	

- (2) 貴社において、外部監査(監査法人による監査)の報酬について、不正への対応という観点から見て、どのように評価しておられますか。以下のうち、最も当てはまる評価の数字に○を付けてください。



質問紙 兼 回答紙

ご回答は、本紙に直接ご記入願います。

(3) 貴社において、過去 10 年以内で、外部公表の有無を問わず、また、親会社・子会社を問わず、以下の会計不正を経験したことがありますか。経験したことがある会計不正に○を付けてください。

不正の種類	経験の有無 (○を付けてください)
＜不正な財務報告＞	
売上の架空計上	
売上の早期認識	
費用・損失の隠蔽又は先送り	
原価の付替え	
非連結の関係会社を利用した売上の架空計上	
架空循環取引	
不適切な資産評価	
不適切な開示	
海外子会社における不正な報告	
＜資産の流用＞	
経営者による資金の流用	
子会社役員における横領	
従業員による横領	
水増し発注又はリベート	
不正支出	
海外子会社における不正支払	

(4) 上記の(3)において不正を経験したことがあると回答された場合、不正が発覚したきっかけとして最も当てはまる選択肢を1つ選んで、その記号に○を付けてください。

【発覚のきっかけの選択肢】

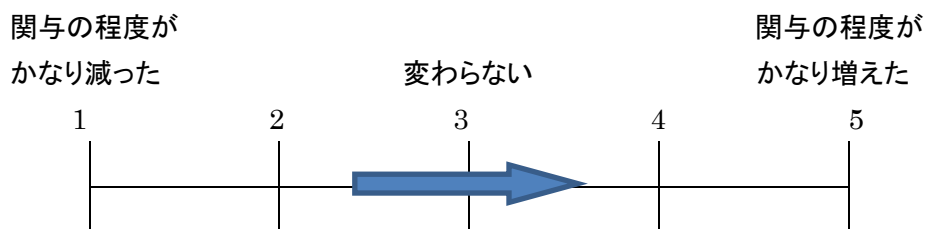
a. 内部通報	e. 外部の取引先等からの指摘
b. 内部監査	f. 外部の公的機関からの指摘
c. 監査役(会)、監査等委員会又は監査委員会による監査	g. マスコミ等による指摘
d. 監査法人による監査	h. その他(具体的にご記入ください)
	{ }

質問紙 兼 回答紙

ご回答は、本紙に直接ご記入願います。

- (5) 貴社において、不正を経験した後に、以下の表に挙げる当事者又は機能が貴社の財務報告等に関与する程度は、どのように変わりましたか。それぞれの項目ごとに、表下のスケールをご参考に、**1(かなり減った)～5(かなり増えた)まで**のうち、**最も当てはまる数字を1つご記入ください。**

当事者又は機能	関与の程度の変化 (1 から 5 までの数値でご記入ください)
1. 監査法人	
2. 監査役、監査等委員会又は監査委員会	
3. 内部監査	



- (6) 貴社において、会計不正が行われた時期から発覚までの期間として、以下のうち**最も該当するものに○を付けてください。**

1. 0 か月～1 か月
2. 1 か月～6 か月
3. 6 か月～1 年
4. 1 年～3 年
5. 3 年超
6. 会計不正を経験したことはない

質問は以上です。

ご回答ありがとうございました。